

カナダ・ニューウエストミンスター市との50年を振り返る

大阪府守口市企画財政部企画課

カナダの都市との提携第1号

守口市がカナダ・ニューウエストミンスター市と姉妹都市提携を結んだのは、1963年4月10日のことです。これは、日本の都市とカナダの都市の間では初めての姉妹都市提携となる記念すべきものでした。1961年6月、当時の守口市長が欧米各国の地方自治制度を視察したことを契機に、駐日カナダ大使の仲介により、守口市とニューウエストミンスター市は協議を重ねました。そして、1963年、当時のエリザベス・S・ウッド市長夫妻を守口市にお迎えし、両市の友好を深め、ひいては世界平和に貢献することを誓い合い、姉妹都市提携の調印に至りました。

学生同士の交流が活発

守口市では、この姉妹都市提携を機に民間レベルでの交流を進めるため、広く市民に呼びかけ、会員制による守口市都市提携協会を1963年11月に発足させました。以後、同協会では、2年ごとに学生を、4年ごとに市民で組織する親善使節団をニューウエストミンスター市に派遣する一方、ニューウエストミンスター市からは市民、学生、スポーツ団体を受け入れるなど、相互理解に努めてきました。現在では、財団法人守口市国際交流協会がこの活動を引き継ぎ、これまで守口市都市提携協会の会員限定で実施してきた事業を、全ての市民を対象とし、市民の国際交流に対する理解と関心を高めるとともに、守口市を訪問・滞在する外国人との交流や外国人への情報の提供に努めています。

1993年には、姉妹都市提携30周年を記念して守口市長を団長とする親善使節団をニューウエストミンスター市に派遣し、記念式典に参加しました。その際、異文化体験と国際理解を促進するなど教育分野

での交流を目的として、守口市とニューウエストミンスター市の両市とともに、現地の大学であるダグラスカレッジとブリティッシュコロンビア州を加えた4者で資金を出し合って記念奨学金基金を創設しました。現在はその基金の運用益を活用して、特別留学生として市民をダグラスカレッジへ派遣しています。

また、守口市国際交流協会が実施主体となっている学生同士の交流も盛んで、毎年のように両市が学生を互いに派遣し、ホームステイをするなど、国際交流や多文化共生に対する理解を積極的に深めています。

昨年の2013年には、外務省の事業「北米地域との青少年交流—カナダとの高校生交流事業（^{しょうへい}招聘と派遣）」の一環として、ニューウエストミンスター・セカンダリースクールの学生訪問団が守口市を訪れました。歓迎式の際には、大阪のソウルフードである「たこ焼き」を食べる機会を設けました。その後は、守口市内にあるたこ焼き器の製造工場を見学し、一行は興奮さめやらぬ様子で、守口市を後にしました。

両市長が特別名誉市民に

さまざまな分野で交流を続けてきた両市の姉妹都市提携は、2013年に50周年を迎えることとなり、この大きな節目に際して守口市では、ウエイン・ライト市長からの招聘を受け、2013年5月22日から27日までの6日間の日程で、市長を団長とする親善行政訪問団と公募の市民で構成される親善市民訪問団を派遣しました。

ニューウエストミンスター市では、滞在期間を通して開催されていた歴史と伝統をもつ祝祭行事であるハイヤックフェスティバルの式典への参加、自然豊かなフレーザー川の散策など、各方面の関係者か

らの手厚い歓迎を受けながら、ニューウエストミンスター市の魅力を余すところなく肌で感じることができました。

特にハイヤックフェスティバルは、フェスティバル開催150周年を祝う盛大なものであり、沿道でたくさんの市民が声援を送るなか、市内のメインストリートを、軍隊を先頭にオープンカーに乗った両市の市長や市議会議員団がパレードしました。このパレードには、守口市からの親善市民訪問団も参加して、法被を着て行進するなど、思い思いに楽しみました。このほか、軍隊の儀式として受け継がれている「ハイヤックアンビルバッテリー（祝砲）」が行われるなど、フェスティバルは大変な盛り上がりを見せ、訪問団一行にとって、非常に印象深いものとなりました。



ハイヤック国際パレードの様子



パレード終了後、クイーンズパークにて記念撮影

また、パレード当日のメイン会場においては、両市長がお互いに特別名誉市民の称号を授与し合いました。この際、西端市長からウエイン・ライト市長へ記念品として「かぶと」を贈呈すると、大層感激されそのかぶとをすぐさま頭にかぶり、市民が見守るなか、満面の笑みで守口市長の手を強く握り、古き良き日本のパートナーが海を渡りはるばるこのお祝いの場に駆けつけてくれたと心から謝辞を述べられました。守口市長をはじめとする行政訪問団に市民から盛大な拍手が送られました。訪問団一行にとって、この50年の重みを感じるとともに、両市がまさに旧知の友として、良い関係を築いていることをあらためて感じる大変意義深き1日となりました。



ニューウエストミンスター市長へ特別名誉市民章を授与

をあらためて感じる大変意義深き1日となりました。

また、バンクーバー市内を見学した折には、在バンクーバー日本国

総領事のご厚意により、総領事公邸にお招きをいただきました。歓談のなかで外務省事業の一環として、ニューウエストミンスター・セカンダリースクールの生徒たちが日本を訪問するにあたり、ここ総領事公邸でオリエンテーションを兼ねた壮行会が開催されたこと、また、日本訪問の報告として、守口市でたこ焼きを食べ、たこ焼き器の製造過程を興味深く熱心に見学したことなどの報告があったことが話題に上がりました。

また、総領事は、なぜ守口市とニューウエストミンスター市が他市とは比較にならないほど早い時期に姉妹都市提携に至ったのかとお聞きになり、その経緯について行政訪問団から当時のことを説明する一幕などもありました。

総領事は、守口市とニューウエストミンスター市の姉妹都市提携は、日本とカナダの姉妹提携都市第1号であり、両市だけでなく、両国の国際交流の先駆けとして、今なお50年の月日を経ても友好交流が続いていることに感銘され、短い時間ではありましたが、行政訪問団にとって貴重な意義のある公邸訪問となりました。

市民レベルの交流を大切に

このたびの親善訪問は、守口市とニューウエストミンスター市の間には、太平洋を越える距離があることを感じさせないほど、お互いを身近に感じ、強い信頼関係で結ばれていることをあらためて実感させるものとなりました。

50年間という友好関係は、お互いの努力なしには継続できることではありません。しかし、守口市とニューウエストミンスター市は、特別なことをしてきたわけではなく、姉妹都市として、市民レベルでの交流を大切に、50年という年月をかけ、自然と友好関係を築いてきたように思います。

その意味において、今回、行政のみならず、親善市民訪問団を加えた交流が行われたことは、両市の関係において、重要な意味を持つものであったと認識しております。

これまで50年にわたって構築してきた信頼関係を土台とし、次の50年、100年に向けてさらなる友好関係と国際交流の進展につなげていきます。